



新屋図書館にモニュメントを寄贈した高橋敏雄さん(新屋朝日町・矢印のかた)と秋田関友会のみなさん

### 文化の発展を願い寄贈

定年退職を機会に、市の文化に貢献できるものを残したいと考え、金属工芸の秋田関友会に相談。市出身の人間国宝・(故)関谷四郎さんゆかりの金工技術によるモニュメントを、新屋図書館に寄贈することになりました。地元新屋が市の文化や芸術活動の中心として発展して欲しいと願っています。

おしゃべり

### 緊張したけど、大感激!!

開通式では、市内の中学校を結んでのディベートや、オーストラリアの中学生とインターネット会議をしました。とても緊張したけど、オーストラリアの中学生たちが日本語で話してくれて、大感激。これをきっかけに、交流の輪が広がればいいな。



インターネット全中学校開通式で伊東真実さん(左)と穴戸幸子さん



アラスカの高校を訪問した田村梢さん(太平中2年・左)と佐々木教恵さん(秋田高1年)

# ひと

## キナイ半島郡を訪問した 中高校生のみなさん

帰国するとき、名残りを惜しむホストファミリーから「日本に帰さない」と言われて航空券を取り上げられそうになった参加者もいたそうです。佐藤興子さん(中央高二)は、「観光旅行では絶対にできない体験。日本の文化のすばらしさ、異文化に触れることの大切さを学ぶことができました」と、貴重な経験を語ってくれました。

## 真冬のアラスカで国際交流

アメリカ合衆国アラスカ州キナイ半島郡。平成5年から秋田市が交流を続けているこの地を、一月三日から十三日まで、市の「青少年国際理解促進事業」に参加した十人の中高校生が訪れました。ホームステイや学校の授業への参加、ホームパーティーなどを体験し、寒い寒いアラスカで温かい交流……。

「今の時期、アラスカでは最低気温がマイナス二十度にもなることがあるそうです。でも、家や学校など、建物のなかは暖かく、Tシャツ姿のひとがたくさんいるのはビックリ」と齊藤ゆかりさん(泉中二年)。佐藤梢恵さん(勝平中二年)は、「英語に不安はあったけど、言葉は慣れ。どこでも優しくしてもらって、人との関わりという面でも、とても有意義な体験でした」と話してくれました。



除雪車を運転している土田国男です(市除排雪対策本部)

### 除雪への協力をヨロシク

朝一番のバスが通れるよう、午前2時から6時までが私たちの仕事本番。でも、除雪のじやまになるのが違法駐車。除雪車のすぐ後ろまで接近する車も困りますね。バックができず、きれいに除雪ができないんですよ。ご協力をお願いします。



## 市長ホットライン

市政への建設的なご意見を市長に直接お話しください

フリーダイヤル ☎(0120)681・815

2月26日(金)午前10時~11時

## 私の私読日記 本の抄々

真実の先生

— 北方教育の魂 加藤周四郎物語 —



市長  
石川錬治郎

秋田県の教育史の特筆すべき実践例として、児童生徒の生活綴方(作文)を方法として自己認識を確立させることをめざした北方教育運動という教師集団があったことは広く知られている。本書は北方教育同人の中から加藤周四郎という秋田市生まれの一教師のすばらしい教育実践とその生涯を紹介したものである。著者の戸田金一氏は秋田大学名誉教授で、数年来私も教えをいただいた方である。「序」で著者は次のように書く。「あらかじめ述べておきたいことがある。戦争をすすめた国家が生活綴方に熱心な模範教師たちの活動を、治安維持法違反という冤罪でつちあげ事件に仕立ててしまったことについてだ。この事件に連座した教師の数は、およそ三百余といわれているが不明だ。裁判経過も明確ではなく、また戦後において、この教師たちが名誉を回復した人生を送れたかどうか……。だがみずから教育界に復帰を求めず、あるいは希望したが復帰できなかった者がいる。東北では秋田の加藤周四郎、山形の国分一太郎、宮城の鈴木道太……」

本書を読むといつの時代でも教育の問題はその国の政治・経済・地域社会と密接なつながりの中に位置づけられ、またほんろつされてきたことがわかる。その中でいかに真剣に子ども達とかわわっていた教師達が存在していたか。著者は終章の「真実は不死鳥のように」の項で次のように書いている。  
『ある日、わたしは作者不詳の詩を目にして驚いた。  
私が先生になったとき  
自分が真理から目をそむけて  
子どもたちに本当のことが語れるか  
私が先生になったとき  
自分が未来から目をそむけて  
子どもたちに明日のことが語れるか  
私が先生になったとき  
自分が理想を持たないで  
子どもたちにどうして夢が語れるか  
私が先生になったとき  
自分がスクラムの外にいて  
子どもたちに仲よくしろといえるか  
私が先生になったとき  
自分がたたかいてから目をそむけて  
どうして子どもたちに勇気を出せといえるか  
これは、かつてこういう先生がいたから、というなら加藤周四郎だ。北方教育の先生たちだ。そして全国の生活綴方の教師たちだ。もちろん大切なのは、こういう先生になりたいということだ。みんながこのように真実の先生に育つことだ。私は、この詩が好きだ。』

「真実の先生」北方教育の魂 加藤周四郎物語  
戸田金一著 教育史料出版会 一九九四年発行

# Book

### 図書館の新刊案内

中央図書館明徳館 ☎(832)9220  
土崎図書館 ☎(845)0572  
新屋図書館 ☎(828)4215



### 鬼の橋

伊藤遊/作 太田大八/画  
12歳の小野童(おののたかむら)は妹を死なせてしまったという思いから、あの世へつながらる橋まで来てしまう。そこで出会った坂上村麻呂の悲しみ、冥府から逃げてきた鬼の生き様などが繰り広げられる壮大なファンタジー。(小学校高学年から)

### 一般書

萬斎でござる 野村萬斎/著

風と歩く-小説- 伊能忠敬と四人の妻たち 佐藤嘉尚/著  
コンピュータ大暴走 2000年クラッシュ 草野達雄/著  
カミナリはここに落ちる-雷から身を守る新しい常識 岡野大祐/著

### 児童書

ベニーさんと動物家族 マリー・ホール・エッツ/作絵(幼児から)  
紙人形のぼうげん マーガレット・マーヒー/文(小学校中学年から)